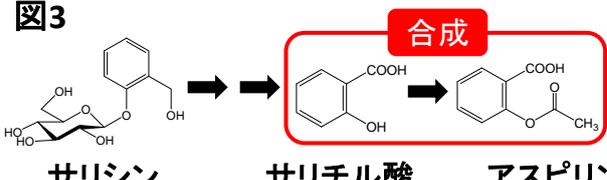


整理番号	HT28043	分野	医歯薬学	(キーワード)くすり
------	---------	----	------	------------

青森大学

薬を創る薬剤師

先生(代表者)	大越 絵実加 (おおこし えみか) 薬学部・准教授			
自己紹介	こんにちは。わたくしは、薬剤師の資格を持って大学の先生をしています。病気になったときの多くの苦しみを救う「くすり」。そう分類される化合物の結晶を手の中から生み出し、確かめ、そして患者へとつなぐ世界を体験してください。実際にはたらく薬剤師の話聞いて、どんなお仕事なのか、健康を支える立場でどんな願いを持っているのか聞いてみてください。「薬を創る薬剤師」を自分の未来に重ね、一つの可能性を描ききっかけにしてもらえたら嬉しく思います。			
開催日時・主な募集対象	平成 28 年 9 月 10 日(土)	(対象)	高校生	(人数) 25 名
集合場所・時間	青森大学 薬学部 5 号館	(集合時間)	9:50	
開催会場	青森大学 薬学部 5 号館 住所: 〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 アクセスマップ: <a href="http://www.aomori-u.ac.jp/guide/access/">http://www.aomori-u.ac.jp/guide/access/</a>			
<b>内 容</b>				
<p>アスピリンは 19 世紀末に発売されて以来、鎮痛・抗炎症薬として現在に至るまで使われ続けています。アスピリンの起源は、ヤナギの樹皮を熱や痛みを軽減するために用いた、というヒポクラテスの記録があるギリシャ時代までさかのぼります(図 1)。日本では、京都に建立された三十三間堂で手渡される頭痛お守りにもヤナギが入っているようです(図 2)。19 世紀初頭になってヤナギから有効成分が分離されラテン語のヤナギが salix サリックスであることから salicin サリシンと命名されました。このサリシンを改良したのがアスピリンです(図 3)。加えて、アスピリンは単なる「鎮痛・抗炎症薬」ととどまらず、今では心筋梗塞や脳梗塞の再発予防薬としての使用が主流となっています。誕生以来、100 年の時を経てその価値はさらに可能性に満ち溢れています。本プログラムは、このように歴史的背景があり、今なお鎮痛・抗炎症薬として身近で用いられている医薬品「アスピリン」の合成を行います。また、くすりの剤型は錠剤が有名ですが、それ以外のくすりの形、「軟膏剤」を例として、その調製方法を体験してください。そして地域医療を担う実際の薬剤師を紹介しますので、時代の流れとともに進化するくすり、時代を超えても変わらない想い、患者へとつながる世界を尋ね、</p>				
<p>「一つの未来の自分」を想像してください(図 4)。</p>				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p><b>図3</b></p>  <p>サリシン → サリチル酸 → アスピリン</p> </div> <div style="margin-right: 20px;"> <p><b>図1</b></p>  </div> <div> <p><b>図2</b></p>  </div> </div>				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p><b>図4</b></p>  </div> </div>				

スケジュール	持 ち 物
9:00～9:50 受付(薬学部 5 号館 1F)	筆記用具、上履き
10:00～10:20 全体説明、学長あいさつ、担当教員の紹介 (終了後、実習室へ移動)	特 記 事 項
10:30～10:40 開講式 科研費の説明、本日のスケジュール説明	<p>当日、青森駅⇄青森大学の送迎を希望される受講生は「プログラムに期待すること」の欄に「送迎希望」と記入してください。</p> <p>プログラムが午前・午後に及ぶので、参加に当たっては保護者の同意(青森駅または大学までの送迎は、保護者が責任を持つ)が事前に必要です。</p> <p>受講生には昼食をご用意いたしますが、同伴される保護者の方は、昼食をご用意ください。</p>
10:40～11:10 講義 1「アスピリンについて」講師:大越絵実加、 講義 2「アスピリンの合成」講師:鈴木克彦 (終了後 5 分休憩)	
11:15～12:45 実験 1「アスピリンの合成」	
12:45～13:45 昼食・休憩 (担当教員および学部学生との座談会) 終了後実習室へ移動	
13:45～14:40 実験 2「アズノール軟膏の調製」講師:小笠原恵子 (終了後 10 分休憩)	
14:50～15:30 実習 1「地域医療における薬剤師の役割とは」 地域薬剤師 2 名と座談会・クッキータイム	
15:30～16:00 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)、 終了・解散	

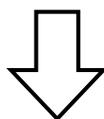
### 《お問合せ・お申込先》

所属・氏名 :	片岡 美里
住 所 :	〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1
TEL 番号 :	017-738-2001
FAX 番号 :	017-738-0143
E - m a i l :	<a href="mailto:kataoka@aomori-u.ac.jp">kataoka@aomori-u.ac.jp</a>
申込締切日 :	平成28年9月7日(水)

※当プログラムは先着順にて受付を行います。

### 《プログラムのテーマと関係する科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
大越絵実加	H26-28	基盤研究(C)	26462854	口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。